

中小企業景況調査報告書

令和8年 4～6月期 実績

令和8年 7～9月期 見通し

始良市商工会

(令和8年7月発行)

この調査は、始良市の産業状況等地域の経済動向について、四半期毎に変化の実態等諸状況を収集して実施しているものです。

この報告書の中で、用いられているD・I指数とは、ディフュージョン・インデックスの略で、【増加・上昇・好転】の割合から【減少・低下・悪化】の割合を差し引いた値で企業経営者の景気動向を表す指数として利用されています。

〈お天気マークの説明〉

 特に好調 +30.0 以上	 好 調 +29.9～ +10.0	 まあまあ +9.9～ ▲9.9	 不 振 ▲10.0～ ▲29.9	 極めて不振 ▲30.0 以上
---	--	---	---	--

1. 調査対象期間 令和8年 4～6月期を対象とし、調査時点は令和8年7月1日とした。
令和8年 7～9月期は予測値となる。
2. 調査方法 商工会の経営指導員による訪問及び面接調査による。
3. 調査対象商工会 始良市商工会
4. 回答企業 対象企業 30企業 (※始良市30企業を基に指数を表示してあり、あくまでも参考指数と理解下さい。)
製造業：7企業 建設業：7企業 小売業：8企業 サービス業：8企業

県内産業別業況 DI

		製 造 業		建 設 業		小 売 業		サービス業	
対前年 同月比	7年 4月～ 6月期		▲12.5		16.6		▲23.3		▲22.4
	7年 7月～ 9月期		▲31.7		20.0		▲37.7		▲15.8
	7年 10月～ 12月期		▲21.9		10.0		▲39.3		▲21.6
	8年 1月～ 3月期		▲14.7		16.6		▲40.0		▲11.8
	8年 4月～ 6月期		0.0		▲19.4		▲40.0		▲20.0
	来期見通し(7～9月期)		▲9.7		▲16.1		▲46.6		▲14.7

総 合(業況)

前年同期(令和7年4月～6月期)と比較した今期(令和8年4月～6月期)の業況は、製造業 0.0(前年同期比 12.5ポイント改善)、建設業 ▲19.4(前年同期比 36.0ポイント悪化)、小売業 ▲40.0(前年同期比 16.7ポイント悪化)、サービス業 ▲20.0(前年同期比 2.4ポイント改善)となった。

また、前期(令和8年1月～3月期)と比較すると、製造業 14.7ポイント改善、建設業 36.0ポイント悪化、小売業 0.0ポイント変化なし、サービス業 8.2ポイント悪化となった。今期については、中東情勢の影響による原材料の価格高騰や仕入商品の品薄が経営状況に影響を及ぼしていることがみられ、これらの要因は全業種において経営上の問題の上位を占めている。

なお、来期（令和 8 年 7 月～9 月期）の見通し（D I）は、今期と比較すると、製造業 9.7 ポイント、小売業 6.6 ポイント悪化の見通しとなるものの、建設業 3.3 ポイント改善、サービス業 5.3 ポイント改善の見通しとなる。原材料の価格高騰に加え、賃上げに伴う採用難や人手不足による働き方への影響が今後も続く見込みである。さらに、今後も続く値上ラッシュによる消費者の購買力低下が需要の停滞を招き、中小企業・小規模事業者にとっては、利益確保が一層厳しい経営環境が続くと考えられる。

業種別景気動向

【製造業】 有効回答数 7 企業

調査対象企業内訳：食料品(2)、窯業(1)、衣類(1)、家具(1)、印刷(1)、ガラス製品(1)

	売 上 額		採 算		資金繰り		業 況	
7年 4月～ 6月期		0.0		14.3		0.0		0.0
7年 7月～ 9月期		▲14.3		0.0		0.0		0.0
7年 10月～ 12月期		0.0		0.0		▲14.3		▲28.6
8年 1月～ 3月期		14.3		▲14.3		▲14.3		0.0
8年 4月～ 6月期		14.3		0.0		14.3		0.0
来期見通し(7～ 9月期)		0.0		0.0		0.0		0.0

<調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・飲食店向け活魚水槽設備は、景気低迷の影響により需要が弱含んでいる。一方、陸上養殖設備は新規参入事業者の増加により、需要が拡大している。
- ・原材料価格や人件費の上昇が続き、収益環境は厳しい状況である。
- ・受注は維持しているものの、コスト増加の影響で先行きは不透明である。

<経営上の問題点>

- ・人件費や原材料費、光熱費などの経費増加により利益が圧迫されている。
- ・コスト上昇分を販売価格へ十分に転嫁できず、収益の確保が課題となっている。

【建設業】 有効回答数 7 企業

調査対象企業内訳：総合工事業(2)、設備工事業(1)、職別工事業(4)

	完成工事額		採 算		資金繰り		業 況	
7年 4月～ 6月期		14.3		28.6		▲14.3		▲28.6
7年 7月～ 9月期		42.9		28.6		14.3		28.6
7年 10月～ 12月期		14.3		0.0		0.0		14.3
8年 1月～ 3月期		28.6		▲14.3		▲28.6		▲14.3
8年 4月～ 6月期		28.6		14.3		14.3		14.3
来期見通し(7～ 9月期)		0.0		0.0		0.0		0.0

<調査企業が感じている景気判断コメント>

- 資材価格の上昇が続き、受注はあるものの収益面では厳しい状況にある。
- ・工事需要は堅調に推移している一方で、資材調達や人材確保への懸念が続いている。

<経営上の問題点>

- ・原材料価格の上昇による収益悪化と、価格転嫁の難しさが課題となっている。

- ・熟練技術者の不足に加え、資材の安定調達が難しく、工期や受注計画への影響が懸念されている。

【小売業】 有効回答数 8 企業

調査対象企業内訳：飲食料品(3)，衣服(1)，各種商品(2)，その他(2)

	売 上 額		採 算		資金繰り		業 況	
7年 4月～ 6月期		▲ 50.0		0.0		▲ 37.5		▲ 50.0
7年 7月～ 9月期		▲ 25.0		▲ 12.5		▲ 50.0		▲ 37.5
7年 10月～ 12月期		▲ 62.5		▲ 12.5		▲ 50.0		▲ 37.5
8年 1月～ 3月期		▲ 37.5		▲ 12.5		▲ 75.0		▲ 50.0
8年 4月～ 6月期		▲ 25.0		▲ 25.0		▲ 12.5		▲ 37.5
来期見通し(7～ 9月期)		12.5		▲ 12.5		25.0		▲ 37.5

＜調査企業が感じている景気判断コメント＞

- ・仕入価格の上昇が続く一方で、消費者の節約志向が強く、売上は伸び悩む状況が続いている。
- ・物価高の影響により消費マインドは慎重で、需要の回復には時間を要すると見込まれる。

＜経営上の問題点＞

- ・仕入単価の上昇が収益を圧迫しているものの、価格転嫁が難しく利益率が低下している。
- ・消費者ニーズの多様化や需要の停滞に対応するため、品揃えや販売方法の見直しが課題となっている。

【サービス業】 有効回答数 8 企業

調査対象企業内訳：洗濯業(2)，理美容業(3)，飲食店(2)，その他(1)

	売 上 額		採 算		資金繰り		業 況	
7年 4月～ 6月期		12.5		▲ 12.5		0.0		0.0
7年 7月～ 9月期		0.0		▲ 50.0		0.0		▲ 12.5
7年 10月～ 12月期		▲ 12.5		▲ 25.0		▲ 12.5		▲ 12.5
8年 1月～ 3月期		37.5		0.0		▲ 25.0		25.0
8年 4月～ 6月期		▲ 37.5		▲ 50.0		▲ 37.5		▲ 50.0
来期見通し(7～ 9月期)		25.0		▲ 25.0		12.5		0.0

＜調査企業が感じている景気判断コメント＞

- ・原材料や各種経費など幅広い分野で価格上昇が続いている。消費者の節約志向が今後どの程度続くか見通せず、先行きは不透明な状況である。
- ・4月は選挙の影響もあったと考えられ、歓迎会の開催が例年より少ない印象であった。5月は宴会需要が増加したものの、利用は週末に集中し、平日は比較的落ち着いた状況で推移した。全体としては、売上は前年を下回る見込みである。
- ・原材料や容器代をはじめ、仕入価格全般の高騰により利益の確保が難しい状況が続いており、価格改定を検討している。

＜経営上の問題点＞

- ・光熱費や設備維持費など、人件費以外の経費が増加し、利益が圧迫されている。
- ・人件費の上昇に加え、従業員の確保が難しく、人材不足が事業運営に影響を及ぼしている。

《参考となるその他の景況から》

2026年7月1日
日本銀行鹿児島支店

鹿児島県金融経済概況

前回からの変化（注）

総括判断	鹿児島県の景気は、一部に弱めの動きもみられるが、緩やかに回復している	→
------	------------------------------------	---

【項目別の推移】

前回からの変化（注）

個人消費	底堅く推移している	→
観光	緩やかに回復している	↑
公共投資	高水準で推移している	→
住宅投資	弱めの動きとなっている	→
生産	弱めの動きとなっている	→
設備投資	増加している	→
雇用・所得環境	緩やかに改善している	→
物価	前年を上回って推移している	

（注）「↑」は判断引き上げ、「→」は据え置き、「↓」は判断引き下げを示す。

【金融面の動向】

預金	前年を上回った
貸出金	前年を上回った
貸出約定平均金利	前年を上回った
企業倒産件数	前年を下回った

以 上